あなたにとって、手漉き和紙とは

「和紙」という伝統を後世へ――。和紙に関わる多くの人の想い・努力がその一枚一枚の和紙となり、東秩父村の伝統を未来へと、つないでいきます。



今回、本特集で取材させていただいた細川紙・大河原和紙技術者研究生の２人に、和紙に対する想いや、これからのことについてインタビューしました。

Q 手漉き和紙を次の世代につなぐために、大切なことは何ですか？

■市村さん：手漉き和紙を次の世代につなぐためには、技術や思いを伝えていくことが大切だと思います。曾祖父母の世代までは身近な存在だった和紙も、今では守り、残していかなければならないものになっています。先人たちが受け継いできた技術や思いを、自分が受け継ぎ、それを次の世代へ伝えていく。その積み重ねが、手漉き和紙を未来へつないでいくことだと思います。

■中野さん：和紙漉きに関わる全てのものを、残そうとする努力が大切だと思います。楮を育てる人、道具を作る人、和紙を漉く人、和紙を使う人。それぞれの立場で支える人がいて、その仕事が必要とされているからこそ、すばらしい手漉き和紙文化は長く受け継がれていくのだと思います。

Q あなたにとって、手漉き和紙とは？

■市村さん：手のかかるよいじゃあない（大変な）ものですね。でも、よいじゃあないけど、僕にとっても、村にとっても大切な、ずっとこの先も残していかなきゃいけないものです。

■中野さん：ちょっぴりワクワクするもの。紙を見たり、触れたり、紙を使って何かを作ったりとその瞬間ごとに私をワクワクさせてくれる存在です。

二人に共通していたのは、
「手漉き和紙を残したい」という思い。
さまざまな人の仕事がつながって、
一枚の紙になります。

▼研修当時の様子







細川紙・大河原和紙技術者研究生って何だろう？

村の伝統的な手漉き和紙技術を次世代へ継承することを目的に、村技術者研修事業を終了した者で、細川紙技術者協会の正会員となることを目指しながら、後継者不足などの課題に向き合い、村の和紙文化を未来につなぐ役割をになっています。